

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	38470
事業名	札幌ドーム周辺活用推進費					
評価担当課	所属名	ス)招致推進部 調整課				
	課長名	江澤 幸介	担当者名	佐藤 拓馬	電話番号	011-211-3042
施策名	主	-				
	副					
アクションプラン	○ 対象 ● 対象外		戦略ビジョン	● 対象 ○ 対象外		
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費					
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理					
事業内容	実施形態	○ 直営 ● 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助助成 ○ その他				
	目的	短期	札幌ドーム周辺地域におけるスポーツ交流拠点の形成にあたり、公的資金の抑制だけでなく施設の充実やサービスの向上等を図るため、適切な拠点整備事業者等の選定を行う。			
		長期	札幌ドームを核として、誰もがスポーツに参画できる環境を創出するとともに、集客交流産業の振興に資する機能性を高めるための拠点を形成し、国内外からの投資や多くのヒト・モノを呼び込む。			
	取組内容	冬季オリンピック・パラリンピック計画では、開閉会式会場やアイスホッケー会場のほか、メダルプラザ等を仮設整備し、多くの市民と来訪者が集う賑わい会場として活用することとしており、大会後には大会の記憶を留める象徴空間としていく。 月寒体育館の後継施設のほか、札幌ドームとの相乗効果が期待できる多様な施設を配置することで、スポーツと集客交流の拠点を形成する。				
	実施結果	札幌ドーム周辺地域におけるスポーツ交流拠点基本計画検討業務では、高次機能交流拠点である札幌ドーム周辺地域について、スポーツや集客交流産業の振興と併せて、冬季オリンピック・パラリンピックでの活用も見据えたスポーツ交流拠点の在処について、導入機能や施設配置、具体的な事業手法等の詳細な検討を進めている。 札幌ドーム隣接地の活用可能性については、引き続き、地権者である北海道及び農研機構と協議を進めている。				
事業実施における工夫点	基本計画の検討にあたっては、ディベロッパーやプロモーター等へのヒアリングを実施し、関係部局と協議・調整を行いながら作業を進めている。					
対象者	市民	開始	令和2年度	終了	0年度	
関連法令・条例・要綱等						
他都市の状況	青森県八戸市「フラット八戸」 通年型のアイスアリーナをベースとしてBリーグの試合やコンサート等も行うことができる多目的アリーナを中心に、屋外公共空間や公園などを一体整備する官民連携の拠点整備事例					

◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算
事業費	84,805	37,000	1,628	32,000
うち特定財源	0	0	0	0
人工	0.0	0.0	0.0	0.0
人件費	0	0	0	0
計(事業費+人件費)	84,805	37,000	1,628	32,000
事業費の内訳	令和3年度決算	決算額:1,628千円 <内訳> 環境概況調査費:1,628千円		
	令和4年度予算	予算額:32,000千円 <内訳> 埋蔵文化財試掘調査費:10,800千円、環境アセスメント費:15,400千円、 地形測量調査費:5,800千円		

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
活動指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
成果指標1	指標名	札幌ドーム周辺拠点整備に係る計画の進捗			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
	基本構想作成	基本構想策定	基本構想策定	基本計画作成	
成果指標2	指標名	札幌ドーム隣接地の活用可能性の検討に係る各種調査			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
	土地価格等算出	環境調査等実施	環境調査実施	埋文調査等実施	
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	札幌ドーム周辺拠点整備に係る計画の進捗としては、「札幌ドーム周辺地域におけるスポーツ交流拠点基本構想」を令和4年1月に策定した。 また、札幌ドーム隣接地の活用可能性の検討に係る各種調査としては、環境概況調査の実施により、計画候補地周辺の動植物の生息や生育等の状況を把握することができた。			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	高次機能交流拠点に位置づけられている札幌ドーム周辺地域について、スポーツや集客交流産業の振興と併せて、冬季オリンピック・パラリンピックでの活用を見据えたスポーツ交流拠点の在り方について検討を行うとともに、札幌ドーム隣接地の活用可能性の検討に係る各種調査を行っていくための事業規模としては適切である。			
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	基本構想の策定、環境概況調査実施のため、専門的な知識・経験を有する業者に委託し、効率的な事務運営に努めた。			
対象者の満足度 (対象者のニーズに応えているか)	A	本件基本構想は、庁内議論やパブリックコメントの実施を経て、令和4年1月に策定することができた。令和4年度では、基本構想やパブリックコメントの意見を踏まえて、基本計画の検討を行っていく。			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input checked="" type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応		<input type="checkbox"/> 回答 <input type="checkbox"/> 反映
今後の改善点	基本計画の作成に向けて、関係部局や関係者等の意見を踏まえた施設配置や導入機能、事業手法等の検討を実施する必要がある。				
前回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	なし		見直し効果額 (前年度)	0	千円
今回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	札幌ドーム周辺地域の将来的な在り方や冬季オリパラ大会時の活用方法等の検討及び札幌ドーム隣接地の取得及び活用可能性の検討に係る各種調査を行った。今後は、拠点整備に向け、必要機能・施設の具体的な検討や札幌ドーム敷地及び周辺の環境調査を行っていく必要がある。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	● 改善 ○ 現状維持 ○ 休止・廃止 札幌ドーム周辺地域のスポーツ交流拠点に必要な導入機能や施設を具体的に検討し、有識者等の意見を取り入れながら基本計画の策定に向け、事業を行っていく必要がある。			
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ その他 事業に必要な業務等を精査し、積算を行う。		見直し効果額	0 千円